

模擬人工衛星天高く

中日本航空専門学校生 ペットボトル製ロケット発射実習



関市迫間の中日本航空専門学校で21日、高度計や小型カメラなどの模擬人工衛星を搭載したペットボトルロケットの打ち上げ実習が行われた。学生らは班ごとに協力して作業する喜びを感じ、ものづくりの楽しさも体験した。

(富樫一平)

今年から本格的に始まったカリキュラムで、航空生産科の宇宙工学実習の一環として行った。模擬人工衛星は、ロケットの先端に小型カメラや基板などを仕込み、飛行中に自動分離し、パラシュートで降下するシステム。約半年前から、1年生約40人が4人一組で製

先端に観測機器が付いたペットボトルロケットを勢いよく発射する学生＝関市迫間、中日本航空専門学校

高度41・8メートルまで飛ばし、先端部の分離にも成功した学生たち＝同

41.8メートル打ち上げ成功、切り離しも



実習では学生たちがポンプでロケットに空気を注入すると、水しぶきを上げながら、空高く舞った。10班のうち模擬人工衛星の切り離しまで成功したのは2班。41・8メートルの高さまで飛ばし、大成功を収めた班は、ペットボトルのフィンを約10度斜めに設置し、全体を回転させながら飛行させ、軌道を安定させる方式を採用した。「班みんなで協力してきて成功して良かった」と喜んだ。

来週に今回の実験映像を解析し、成功、失敗の原因を分析する発表会を開く計画。宇宙ステーション補給機「こづのとり」4号機までの開発にも携わった、同科長の三木陽一郎教授は「協力して課題解決する作業を通し、将来のものづくりを担う人材を育てたい」と語った。